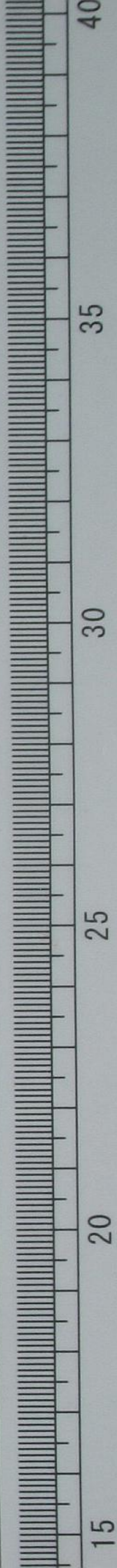


火教大意

林董譯

上

柳田文庫
文庫11
A1524
1



文庫 11  
A 1524  
1

林董譯

# 火教大意

明治十六年  
九月出版

千河岸氏蔵版

## 火教大意目次

第一章	ペルセポリスノゼルシス王宮ノ遺趾 第一葉
第二章	希臘人ガゾーロストルノ説及ヒプリユタークガ火教ノ辨 第七葉
第三章	アンケテルチユペロン氏ノ事及ヒ同氏カゼンド、アベスタノ發明 第十葉
第四章	ゾーロストルノ年時 第十六葉
第五章	ゾーロストル及ヒ其宗教ノ精神 第二十葉

火教大意  
目次  
千河岸氏蔵版

第六章

ゼンドアベスタノ性質 第三十一葉

第七章

バンデヘツシノ時代ニ火教ノ成備

セシ事 第三十八葉

第八章

ゼンドアヘスタノ宗旨ト吠陀ノ宗

旨トノ關係 第五十二葉

第九章

ゼンドアベスタハ一神教カ將タ純

然タルジュアリスムナル乎 第五十六葉

第十章

火教ト耶蘇教トノ關係 第五十七葉



火教大意卷上

林董 十口譯

干河岸貫一筆記

第一章

ペルセポリスノゼルシス王宮ノ遺趾

波斯國ノ東南部ニフハルジスタント名ル一部  
アリ即チ上古ノ波斯ナリ郡中スチラスノ地夕  
ル四面皆山ニシテ土地沃饒ニ風景絶佳ナリ若  
夫春夏ノ交ヒ紅芳地ニ敷キ薰郁空ニ滿チ花舞  
ヒ鳥謳ヒ風聲水音ニ至ルマテ一トシテ人ノ耳

目ヲ悦ハシメサルハナニ滿野ノ禾麥ハ五月ノ  
末ニ於テ豐熟シ葡萄杏桃ノ菓實ノ如キ歐羅巴  
ニ比スレハ頗ル甘美ナリ該國ノ徽章タル薔薇  
ハ大サ樹木ニ均クシテ花ノ盛リニ發クトキハ  
枝條ヲ壓倒スルニ至ル

此ノ地ノ如此天然ニ美景ヲ備ヘタルト女兒ノ  
佳麗ナルトヲ以テ東洋ニ有名ナル詩人ハヒス  
トサーダーガ才藻ヲ誘起セシ者ト思ハル

此山間ノ一端スチラスヨリ西北三十里ヲ距テ  
テ巉然タル半月形ノ地アリ而テ一高邱アルヲ

見其邱ヤ山側ノ巖石ヲ削斷シテ作ル平地ヨ  
リ高キヲ五十尺ニ至ル處々大理石ヲ以テ積疊  
セルアリ其長サ十尺ヨリ廿尺ニ至ル其築造ノ  
太ク緻密ナル殆ト石ヲ接合セシ所ヲモ辨シ易  
スカラヌ程ナリ邱ノ廣袤ハ縱千四百尺横九百  
尺アリ四面ヲ以テ天ノ四方ニ配セリ邱ノ正面  
ニハ大理石ノ磴道アリ廣サ騎ヲ並ヘテ躋ボル  
ベシ磴道ノ直下兩側ニ同ク大理石ニテ雕刻セ  
ル大像ノ立テルアリ恰モ哨兵ノ牙門ヲ衛ルカ  
如シ像ノ額上ニ一角アリヘーレンハ以爲ク是

ニマロムノ形チナリト像ノ四肢五官ノ様ニ  
至テハ巧ミニ鑿刀ヲ揮ヒ筋骨體格ノ真ニ迫ル  
トハ當時有名ナル希臘ノ雕工ニ讓ラス口ヘル  
トポートルハ以爲ク是<sup>ギリキ</sup>マジアン宗ノ神牛ノ形  
チナルヘレト去レハ其容貌ノ人ニ肖テ嚴肅ナ  
ル風情ハ益シ人カニ及ハサル者ノ形チヲ表示  
セシ者ナラン歟此像ハ數百年間空ク茲ニ宿衛  
セシ者ニレテ此ヲ過キテ磴道ヲ登リ邱上ニ達  
ス茲ニ大石柱ノ遺存セルアリ空ヲ凌イテ林立  
ス其雕刻ノ精巧ナル鏤飾ノ美好ナルハ今時有

名ノ建築家ト雖氏模擬スルヲ能ハサル所ナリ  
ト云フ柱ノ高サ五十尺或ハ六十尺ニシテ周圍  
十二尺ヨリ十五尺ニ至ル昔シ此處ニ屋宇アリ  
シ時ニハ南亞細亞ノ人ハ多ク茲ニ來テ炎暑ヲ  
避ケシト云フ又磴道ノ兩傍ナル古壁ニ種々ノ  
像ヲ雕鏤セリ宛モ人ノ階ヲ登ルトキハ像モ亦  
伴テ登ルカト恠シマル像ニ武人アリ文官アリ  
囚虜アリ外邦人アリ中ニ於テ最モ著ルシク見  
ユルハ亞非理加ヨリ來レル崑崙奴ノ形チナリ  
又文章ヲ雕刻セル者多シ而シテ其文字ハ三十

鑷ノ如ク楔ノ如キ字形ニテ古字中最モ古クシ  
テ且ツ讀ミ難キ者ナレハ久シク歐洲ノ博士ヲ  
苦惱セシメシカ遂ニ十九年紀耶穌紀元一千ノ  
知識ヲ以テ漸々之ヲ讀ミ得タリ今ノ古壁ニ題  
セル文ヲクロテヘンドノ讀ミタルニ由レハ左  
ノ如シ

大流士王、王中ノ王、ヒスタスプスノ子、世界ノ  
主宰ノ嫡子、ゼムチツト

又他ノ文ニ曰ク  
ゼルレス王、王中ノ王大流士王ノ子、世界ノ主

宰ノ嫡子

又近來日耳曼ノ東洋學者ベンヒーノ讀ミタル  
文ハ左ノ如シ

オーラマズダ即チ光明ノ王ト云ヘル義ニシ  
トハ威カアル神ナリ天地人ヲ造成シテ人ニ  
榮譽ヲ與ヘゼルレス王ヲシテ衆庶ノ主君タ  
ラシメタリ我カゼルレス王王中ノ王世界ノ  
主宰大流士王ノ子アキメニツト我此所及ヒ  
他所ニ於テ爲シ得タル一切ノ事業ハ盡クア  
ヒユラマズダノ恩惠ニ由ル

又他ノ所ニ左ノ文字ヲ題セリ

アータゼルニス王茲ニ命告ス我ハ此大業ヲ  
建テタルヨリアヒユラマスダ及ヒ「ミ」スラス  
ニ向ヒ我及ヒ我カ建築セル基業ト我人民ト  
ヲ保護センコトヲ禱請ス

是等ヲ以テ觀ルニ此所ハ即チ大流士ト其嗣王  
ゼルニス及ヒアータゼルニスノ宮殿ナルヘシ  
其他他國ヲ略取シタル等ノ事ヲ此古壁ニ記載  
セル者多シ去レハ當時波斯ノ威武强大ナル東  
ハ印度西ハ叙利亞小亞細亞マテモ侵略セシ軍

役ノ中ニ就テ彼ノゼルニス百萬ノ軍ヲ起シテ  
希臘ヲ打チマラソン及ヒテルモピリニ於テ  
赤軍ノ爲ニ敗ラレシ如キハ人口ニ膾炙シテ世  
普ク知ル所ナリ古列モ或ハ此宮殿ニ坐シテ耶  
路撒冷ノ神殿ヲ再興スル命令ヲ降セシヤモ知  
ルヘカラス何トナレハ古列ハ波斯王國創業ノ  
英主ナレハナリ舊約書ニ所謂ゼルニスノ子ナ  
ルアハスヘルスカ書山ヨリ以士帖ヲ伴ヒ来リ  
シト云モ又此所ナリシヤモ知ルヘカラス是則  
チペルセボリスニシテ紀元前三百三十年ニ亞

歴山徳大王カ醉ニ乗シテ燒キ亡シタル宮趾ト  
ハ知ラレタリ今ニ至テハ疊積セル大理石ト昔  
日ノ榮華ノ名殘ノミソ留メケル  
ヘーレン曰ク地ハ隔絶シ風俗ハ遷變シテ昔時  
ノ人ノ榮華ヲ極メタル史傳モ既ニ世ニ存スル  
者ナク書山及ヒ巴比倫ノ如キハミナ其踪跡ヲ  
モ失ヒシニ獨リ此石ノミハ數百年ヲ經テ茲ニ  
遺存セリ其築造ノ宏壯ナルハ觀客ヲシテ心目  
ヲ驚カサ、ルナク其古色ノ幽致ナルハ我輩ヲ  
シテ覺ヘス崇敬ノ心ヲ起サシム況ヤ今日何程イカ

ノ建築術ヲ以テモ倣擬スル能ハサル柱石ト達  
識ノ博士ニテモ讀ム可カラサル文字ト古壁ニ  
彫刻シタル肖像ト磴下ニ對立セル獸像トハ共  
ニ我輩ノ想像ヲ誘起シテ文獻徴ナキ數千歳ノ  
古代ニ溯ラシム

チヲドロス、シクロス曰クペルセポリスノ山側  
ニ波斯王ノ古陵アリ其棺廓ハ繩ヲ以テ吊下シ  
懸崖ノ下ニ葬埋セリヲシヤス曰クヒスタスプ  
スノ子大流士ハ其生存中ニ於テ已レカ陵墓ヲ  
崖下ニ造リ其老親ヲシテ繩ヲ攀チテ下タリ觀



セシメタルニ誤リテ轉墜シ空シク非命ノ死ヲ  
 遂ケタリ此等ノ古蹟ハ宮趾ノ後面ノ山側ニ存  
 セリ陵頭ニハ王ノ像ヲ彫刻シ其一ハ壇ノ前ニ  
 在リマタ壇上ニハ大陽ニ模シタル球形アリ王  
 ノ半身ヲ雕鏤シタル者アリ能ク陵頭ノ王像ト  
 肖タリ又其他ニ羽翼アル獸ノ鷲頭トグリヒシ  
 鬪フ所ノ像ヲ彫リタル都テ此等ハ數百年間波  
 斯ノ國教タリシイラニツキ宗ノ遺趾ナリ其宗  
 旨ヲ繹ヌルニ宗祖ヲゾーロストルト云ヒ經典  
 ヲアベスタト云フ國王ハオルマツツト云ヒ火教ノ  
本尊

從僕ト稱シ火ト大陽ヲ信仰ス即チ火ト大陽ヲ  
 神トシ穢惡ナルクリツヒンニ魔鬼ノ抵敵スル者トス  
 クリツヒントハ即チアリマンノ名造レル  
 所ノ獸ナリ即チ爰ニ羽翼アル獸ト鬪フ像ヲ作  
 レルハ是ゾーロストル宗タルノ確證ナリ何ト  
 ナレハアベスタニ説キ演ル所ニ由ルニ所造ノ  
 萬物ハ其始メニ各々模型アリテ之レニヨリテ  
 造リ生セルナリ即チオルマツツノ巧思ニ由テ  
 造出セシ者ニシテ其模型トハ萬物ノ精神是ナ  
 リオルマツツト雖トモ其生来スルヤ亦模型ニ

依レリト云故ニゾーロストルノ宗徒ハ此模型ナル者ヲ尊信ス此レベルセポリスノ波斯王ノ宮趾ヲ觀併セテ最モ古代ノ「ジュアリスム」(世間ハ陰陽善惡等ノ二物ヨリ成立スルコトヲ説ク所ノ宗教ヲ云フ)ハ茲ニ淵源セシ者ナルヲ知ルニ足ルゾーロストルノ宗教即チ是ナリ

第二章

希臘人カゾーロストルノ説及ヒプリユタ

ークカ火教ノ辨

彼火教ノ肇祖タルゾーロストルハ如何ナル人

ニシテ又何事ヲ爲セシ人ナルヤト參索スルニ紀元前四百年代ニプラトールカ彼ゾーロストルノ事ヲ記シ波斯ノ王カ其子ヲ教育スルコトヲ述ル條下ニ曰ク一人ノ侍讀ハ太子ニ教ルニ「オ」ルマツヅノ火教ノ子ナルゾーロストルノ道ヲ以テス其教ノ中ニハ衆多ノ神ヲ禮拜スルコトヲ含有セリト又グヨトロス、プリユタ、クフルニ及ヒ紀元後百年間ノ人ニハゾーロストルノ事ヲ記シタル人多クアリ就中「ヘロド、ス」ハプラトールノ時代ヨリ前ニ「マレアム」(火教ノ法)ヲ説明

紀元前四百五十年即チ當時波斯ノ「マシ」火  
ノ僧ノ用キタル祭式犧性齋戒葬儀等都テ僧侶  
ノ行フ所ノ方法諸禮式ヲ詳説シタリ其記スル  
所ヲ見ルニ今猶ホ波斯或ハ印度ノ各處ニ遺存  
セル「バルシ」即チ火宗ノ人ノ行フ所ノ者ニ髣  
髴タリ今其記スル所ノ概略ヲ左ニ掲ケハ曰ク  
波斯人ハ神壇ヲ備ヘス殿堂ヲ建テス神像ヲ作  
ラス唯山頂ニ於テ拜ス而シテ恒ネニ天ヲ崇ヒ  
日月地水火風等ニ獻スルニ牲犧ヲ以テス此事  
ハヘロドトスノ書ノ第一卷一百三十一丁ニ出

又壇ヲモ立テス堂ヲモ設ケスライベシヨ  
ン酒ヲ地ニ灌キテヒレツ肉ヲ細割シテ絲麵  
包ヲモ用キス一人ノ僧嫩芽ノ上ニ於テ犧性ヲ  
獻シ其前ニ蹲踞シテ神ノ起本ヲ示ス所ノ詩ヲ  
諷誦スルノミ又彼宗徒ハ大ニ河ヲ尊敬シ決シ  
テ之ヲ瀆スコトヲ爲サス其死尸ヲ殮スルニ當  
テ之ヲ曝露シテ先ツ鳥獸ノ爲ニ其肉ヲ啜食セ  
ラレサレハ葬ラス而シテ蠟ヲ以テ尸ニ塗リ然  
ル後チ之ヲ地ニ瘞却スルヲ以テ俗トス又蝶螳  
レプタイルス蛇ヲ殺スヲ以テ大ナル善業

火教大意 卷上 九

ト信ス是亦ヘロド、スノ書ニ出タリト云フ  
 プリユターク所説ナルゾーロストル及ヒ其宗  
 教ノ辨明ハ太夕趣味アリ即チ左ニ其大要ヲ示  
 サン

或人ハ二個ノ神アルヲ信ス例ヘハ二人ノ工匠  
 カ相競フ如キ者ナリ其一ハ善良ナル物ヲ造成  
 スルコトニカヲ竭シ他夕一ハ醜惡ナル物ヲ造  
 出スル事トス或人ハ善良ナル者ヲ「ゴツト」神ト  
 シ醜惡ナル者ヲ「デモン」魔ト云フゾーロストル  
 ト「マジ」ハトロイデヤンノ時ヨリ五千年前ニ

此世ニ在リシ人ト云フ此ゾーロストルハ善神  
 ヲ名ケテ「オロマシ」ト云ヒ惡魔ヲ「アリマ」ニ  
 ユースト云フ甲ハ萬事賢明ナルコトヲ爲ス之  
 ヲ光明ニ喩フ乙ハ愚惡ナルコトヲ爲ス之ヲ黑  
 闇ニ譬ヘタリ然ルニ更ニ「ミスラス」ト云者アリ  
 此甲乙ノ中間ニ立ツ故ニ波斯人ハ「ミスラス」ヲ  
 中保ト稱ス「ミスラス」ハ初メ善神ニ向テハ感謝  
 シテ供物ヲ獻シ惡魔ニ對シテハ敬シテ遠サク  
 ル爲メノ獻祭ヲ爲スコトヲ誨ヘタリ其故ハ彼  
 宗徒ハ「ホモ」ト名クル植物ヲ舂キ而テ之ヲ

搏スルニ牲ト爲シタル狼ノ血ヲ以テシテフリユ  
 ト<sub>レ</sub>及ヒ黑闇ト呼ヒツ、日光ノ及ヒタルコト  
 ナキ所ニ齋チ去テ之ヲ棄ツ其如此為ス所以ハ  
 植物中ニテモ或種類ハ善神ニ屬シ或種類ハ魔  
 ニ屬スル者ナリト信許スルヲ以テナリ今其一  
 ニヲ云ハ、鷄犬<sub>カ</sub>オルチ<sub>ニ</sub>譯者曰是ハ想像ニ由  
ホ麟鳳ト云カ如キ者カハ善神ニ屬シ水居ノ動物ハ惡神ニ  
 屬スト爲スカ如シ故ニ其惡神ニ屬スル動物ヲ  
 殺スヲ以テ善業トス加之此宗徒ハ神ノ事ニ就  
 テ奇々恠々ナル説ヲ為ス今又其例ヲ擧ケハ曰

ク<sub>レ</sub>ホルマツツ<sub>ハ</sub>清キ光リノ中ヨリ現出シアリ  
 マニユ<sub>ト</sub>ス<sub>ハ</sub>昏黑中ヨリ出テ茲ニ於テ互ニ戰  
 鬪ヲ為ス<sub>レ</sub>ホルマツツ<sub>ハ</sub>最初ニ六個ノ神ヲ造レ  
 リ其一ハ仁ノ神其二ハ信ノ神其三ハ義ノ神其  
 四ハ智ノ神其五ハ富ノ神其六ハ善行ヨリ生ス  
 ル逸樂ノ神ナリアリマニユ<sub>ト</sub>ス<sub>ハ</sub>モ亦之ニ匹敵  
 スヘキ六個ノ惡神ヲ造クレリ爾後ホルマツツ  
 ハ其身ヲ三倍ノ長ケト變化シテ天ニ上昇セリ  
 其高サハ太陽ヨリ高キコト恰モ地球ト太陽ト  
 ノ距離ト同キホトノ處ニ至リ而テ空中ニ恒星

ヲ擢撒シ其際ニ「シリユス」或ハ大ト名クル星ヲ  
 作り諸恒星ノ護リトナシ又爾後廿四个ノ神ヲ  
 造リテ卵殻中ニ納レタリ然ルニ「アリマニユ」  
 スノ造レル同數ノ惡神ハ又此美ナル卵殻ニ居  
 住セリ之カ爲ニ世間ニ善惡ノ混合ヲ致スコト  
 トナレリ然ルニ終末ノ時マサニ来ラントスル  
 ニ及ヘハ此世界ニ永ク凶荒疾疫ヲ流傳セシメ  
 タル所「アリマニユ」ハ全ク殄滅セラレテ  
 地ハ平坦トナリ人ハ長壽ヲ保チテ統一ノ社會  
 ヲ爲シスヘテ幸福ヲ得テ各國人民ノ言語モ同

一トナリ了ルヘシト云フ然リト雖トモセラポ  
 シホスハ曰クマジノ説ニ由レバ上ノ所謂善  
 神惡魔カ三千年ニ一回ツ、互ニ征服セラレ而  
 後三千年間互ニ鬪争シテ各造成シタル所ノ事  
 業ヲ相毀損シ然ル後チ「アリマニユ」ハ終ニ  
 善神ノ爲ニ敗ラレリ衆庶幸福ヲ得テ飲食ヲ須  
 辛サレトモ飢ルコト無ク人各最上至尊ノ地位  
 ニ達シ得ヘシ而シテ此等ノ事ヲ生成シタル所  
 ノ神ハ暫ク休息ス此時間ハ人ニ於テハ太夕永  
 キカ如ク見ルヘケレトモ神ニ於テハ一瞬時間

ノ如シト如此説ヲ爲ス者ハ即チマジノ宗旨  
ナリ我輩ハ今ノ波斯宗一是等ノ談ト髣髴スル  
所ヲ考索セントス波斯ノ教ハ其原ゾ一ロスト  
ルヨリ生セル者ナリ抑今ヲ距ルコト百年前ニ  
至ルマテハ希臘亞刺伯或ハ波斯ノ書ニ載タル  
コトヲ除クノ外ハ實ニ知ルコトヲ得サリシ者  
ハ火教ノ宗致ナリキ然ルニ幸ニ若齡ナル佛人  
ノ勉力ニ由テ世ノ火教ノ理由ヲ討索セント欲  
スル人々ノ耳目ヲ一新洞開セリ故ニ今ゾ一ロ  
ストルノ教旨ニ就テハ一層確實ナルコトヲ談

論スルコトヲ得ルノ時ニ逢ヘリ其事情ハ次章  
ニ述ル所ヲ見ヨ

第三章

アンケテル、チユヘロン氏ノ事及ヒ同氏カ  
ゼント、アヘスタノ發明

アンケテル、チユヘロンハ一千七百三十一年ニ  
佛蘭西ノ巴黎ニ生レ幼キヨリ東洋學ヲ好ミ夙  
トニ希臘亞刺伯波斯ノ國語ノ奧妙ヲ極メタ  
リ其勉強羣ニ超タルヲ以テ早ク東洋學者ノ注  
目スル所トナリ或日國王ノ書籍館ニ入り偶々

センド、アヘスタノ一書ヲ得タリ之ヨリ印度ニ  
遊歴シテゾーロストルノ書ヲ考索シゼンドノ  
語及ヒ梵語ヲ學ヒ巴黎全府ニ讀得ル人無キ所  
ノセンドアヘスタヲ讀マント欲スル志ヲ起セ  
リ當時恰モ印度ニ航スル便船アルヲ聞キ友人  
ニ請托シテ一官負ト爲ルヲ得而シテ印度ニ赴  
カント謀リシカトモ其事遂ニ成ラサリシヲ以  
テ止ムヲ得ス兵士トナリテ佛都ヲ發セント決  
心シケリ然レトモ人ニ語ラハ其志望ヲ妨礙セ  
ラル、事モアラシカト之ヲ包藏シ發途スル前

日ニ至ルマテモ他人ニ之レヲ告ケスマサニ故  
園ヲ辭シ去ラントスル期ニ臨ミテ其兄弟ヲ近  
ク招キ涙ヲ揮テ別離ヲ告ケシカハ各喫驚シ頻  
リニ此行ヲ諫メ止ムレトモ敢テ可カス決然手  
ヲ分チテ發程セリ而シテ其行李中ニハ唯希伯  
來ノ經典ト算術器械トモンタイギートシヤロ  
ンノ著セル書及ヒ一領ノ綿衣アリシノミ時ニ  
寒雨日ニ慘凄タルニ他ノ新募ノ兵士ト同シク  
旅行十日間多少ノ辛苦ヲ經テ遠征發艦ノ港ニ  
著セリ然ルニ佛國政府ハ其志ノ學業ニ篤ク且



剛毅勉強ナルヲ感覺シ直チニ兵役ヲ解キテ  
遑暇ヲ與ヘ加之五百ルブルノ俸金ヲ給與シ  
テ學費トナサシム佛蘭西ノ東印度會社ニテハ  
之カ爲ニ乗船ノ賃金ヲ收メス一千七百五十五  
年ノ二月七日ヲ以テ印度ニ向テ出帆セリ維時  
寢ニ廿四歳ナリキ印度ニ着セシ後二週年間ハ  
英佛ノ交戦アリ又病ニ侵サレタルヲ以テ諸所  
ニ旅行シ未タ學業ニ從事スルコトヲ得ス空シ  
キ月日ヲ送りシカ或時印度ノ各部落ヲ巡回經  
過シテチユケルノ一ノ拜禮僧ノ象ニ騎リテ出

タル時人民膜拜シテ象ノ爲メニ踏ミ殺サル  
コト又ハエロラノ岩窟等ヲ見シコトアリ千七  
百五十九年ニ及ヒテストラットニ赴キシニ此地  
ハ波斯人ノ住スル所ナレハ此ニ留リテ學ハン  
ト決心シ是ヨリ氏カ剛毅忍耐ナル性質ヲ以テ  
黽勉刻苦シ此地ノ火宗ノ人ニ從テゼント語ヲ  
學ヒアベスタノ書ヲ研究シ終ニ最モ價アル書  
冊一百八十卷ヲ齎シ歐羅巴ニ歸リ一千七百七  
十一年ニアベスタヲ翻譯シテ世ニ公ニセシハ  
全ク氏カ非常ノ功績ト云ハサルヘカラス氏ハ

佛國革命ノ騷亂ノ時モ猶ホ生存シ書籍中ニ身  
ヲ埋没シテ只管東洋ノ學科ニ心思ヲ寄セシカ  
千八百〇五年ニ至テ歿セリサレハ此人ハ真理  
ヲ搜索スルカ為メニハ頗ル勇猛剛毅ニシテ心  
志ノ至テ善良ナル人ナリキ

「アベスタ」ヲ出版セシ後チ數年間歐羅巴ノ學士  
社會ニ於テ此書ノ正否如何ニ就テ異説紛紜タ  
リシカ就中ウエリイム、ジヨンスハ此「アベスタ」  
ヲ以テ往古ゾーロストルノ著述シタル書ニハ  
非ストノ意見ヲ主張セリ然リト雖トモ當今有

名ナル學者ハミナ此書ヲ以テ正シキ物ト為セ  
リ既ニ千八百廿六年ニヘーレンノ著セル書中  
ニ曰ク何等ノ書ニテモ此書ノ如ク人ノ論評ス  
ル所トナリタル書ナシ又何等ノ古物ニテモ此  
ゼントアベスタノ如ク審査ヲ被リタル者ハア  
ラス然ルニ其論評ハ却テ此書ノ爲ニ「ベンジダ  
ツト」名篇及ヒ「イセシナ」同上ノ正シキ文章ナルコト  
ヲ證明セリ又之ニ由テ「ゼンドアベスタ」ノ書ハ  
全篇純粹ナル者ナルコトヲ世人ノ確知スル所  
トナレリゾーロスト曰是等ノ書籍ハ上古ゾーロス

トルノ筆セル者ナルコトハ聊カモ疑ヲ容レス  
之カ内面ヨリ見ルモ外部ヨリ視ルモ極メテ古  
キ徴効ヲ具ヘタリ無學ノ人ト偏見ナル者ニ非  
ルヨリハ決シテ此書ノ正否ヲ疑惑セスト

#### 第四章

#### ゾーロストルノ年時

ゼンドアベスタト題セル書籍著述ノ時代トゾ  
ーロストルノ生存セシ年時トニ就テ種々ノ異  
説アリプラトーハゾーロストルノ道ハオルマ  
シヤムト稱セシ故ニ西以蘭ニ行ハレタル宗教

ナリト謂ヘリ然リ而シテアベスタハバクトリ  
ヤ或ハ東以蘭ニ於テ始メテ見ハル者ノ如シ  
之ヲ以テ觀レハゾーロストルノ時代ハ耶蘇紀  
元前少キモ六七百年ニ當ルアベスタノ書ノ著  
述セル時代ニハバクトリヤハ獨立ノ王國ニシ  
テゾーロストルハヒスタスプス王ノ世ニ在テ  
其道ヲ教ヘタリト云フ然ルニ亞述ガバクトリ  
ヤヲ亡ホシテ其地ヲ畧取セシハ紀元前二百年  
ノ事ナリ是即チイラニツキ王國ノ滅亡ナリ故  
ニゾーロストルハ此時ヨリ前ニ在リシ人トス

レハ紀元前千三百年或ハ千二百年代ノ人ナリ  
 此ヨリ詳細ナルコトヲ知ラント欲スルハ難シ  
 ボンセン曰クゾーロストルノ時代ノ事ニ就テ  
 アリストートルノ論定セシ者ニ於テハ其理無  
 キニ非スアリストートルトユートキソストプ  
 リニーノ説ニ從ヘハゾーロストルハプラト  
 ノ死スル時ヨリ六千年ノ前ニ生存セル人ナリ  
 ト云ヒヘルミポスハ突來ノ戰ノ五千年即チ紀  
 元前六千三百年或ハ六千二百五十年前トス然  
 ルニ今ヨリシテ見レハ如此時代ノ古キ者トス

ルコトハ孰カ是ニシテ孰カ非ナルヤヲ知ラス  
 以上ゼノホンノ語スビーゲルノ書ニ曰クソト  
 ロストルハ亞伯拉罕ト同時ノ人ニシテ相隣ツ  
 テ住セリ故ニ紀元前千二百年ニ世ニ在リシ人  
 ナリトニーヘブンノヒツトネーハゾーロスト  
 ルノ時代ハ紀元前千年トス且ツ曰ク波斯國王  
 ササミツト第一世已前ナル波斯ノ歴史ハ古キ  
 ニ過ルヲ以テ之ヲ考索スルハ無益ナリト又ド  
 リンゲルハ以爲クゾーロストルハ摩西ヨリ僅  
 カニ後レタル時代凡ソ紀元前千三百年代ノ人

ナルヘシ然レトモ確然ト之ヲ定ムルコトヲ得  
ストロリリソソハ曰クベロソスハゾーロス  
トルハ紀元前二千二百三十四年前ノ人ナリト  
謂ヘリトホーグハ「アベスタ」中ノ最モ古キカタ  
スレノ詩ヲ摩西ノ時ナリト以謂ヘリラツプハ漸  
クニ古代ノ書籍ヲ考ヘテゾーロストルハ紀元  
前千二三百年代ノ人ナリト云ヘリ是ハドング  
ルノ説ト同レ此ハ希臘ノ著述家ノ最モ古キ者  
ノゾーロストルノ時代ト定メタルト大差ナレ  
希臘ノ著述家トハ大流王ト同時代ナルゼルレ

スノザントスヲ指ス又紀元後二百年代ニセハ  
リオント云フ三個ノ殊別ナル根元ニ由テ定タ  
ル時代モ大ニ殊ナル所ナレ我今ゾーロストル  
ノ時代ヲ定ムルニハ上臚列スル所ノ外ニ據テ  
以テ證徴トスヘキ者ナレ唯其時代ノ確知スヘ  
カラサルコト如此ナルノミナラスゾーロスト  
ルハ何ノ地ニ住セシヤ生涯ノ事業ハ如何ナリ  
シヤヲモ確知レ得ヘカラス概子世ノ著述家ノ  
言フ所ニ由レハゾーロストルハバクトリヤニ  
住セシ人ナリトスポーグハ「ゼンド」ノ書中ノ語

ハバクトリヤ語ナリト云フアンケテル、チユヘ  
ロンノ譯セル「ザルトシツトナマ」ト題セル  
「ロストルノ紀傳ニ由レハゾーロストルハ三  
十歳ノ時以蘭ニ赴キ二十年間沙漠ノ中ニ住シ  
而シテ十年間異蹟ヲ示シ且ツ理學ヲ巴比倫ノ  
人民ニ教ヘ又ピタゴラス希臘ニ於テ有名ナル理學ノ大家ヲ己  
レカ徒弟トシタリト然レトモ此書ハ「ミソロジ  
」神代ノニ依タル者ニシテゾーロストルハ大  
流士王ノ時代ニ在リシ人ナリト云コトヲ  
本トシテ造レル者ナリマキスモルラルノ説ニ

ハ「アペスタ」ノ語ハ大流士王宮ノ老壁ニ彫刺セ  
ル文字ニ比スレハ其語タル未タ幼穉ノ態ヲ帶  
ル者多シ幼穉ハ文法等未定ラス未思フニ其間  
數百年ヲ閱歴セシ者ナルヘシト此彫刺セル語  
ハ「アキメニヤン」ノ方言ニシテゼント語ノ轉訛  
シタル者ナリ

第五章

ゾーロストル及ヒ其宗教ノ精神

思フニゾーロストルハ定メテヒタゴラストモ  
亞伯拉罕トモ相接シタルコト無カルヘシ且ツ

其人ノ生涯ノ事ニ就テハ何事モ知ルコト能ハ  
 スト雖トモゾーロストルト云ヘル人ノ世ニ在  
 リシコトハ疑ヲ容レズ彼人ハ廣漠ナル土壤ト  
 種々ノ人種ト久キ星霜トノ際ニ其優邁ナル知  
 識ノ名譽ノミヲ留メタリ彼ノ人終世ノ事業如  
 何ナリシカヲ知ラス  
 ト雖モ其優邁ナル知識アリ名譽ハ萬年ノ今  
 日ニ至ルマテモ尚ホ數多ノ國土億萬ノ人民ノ  
 中ニ留マリタ其宗教ノ眼目ノ道德ニ在ルコト  
 リト云意ナリハ佛陀教ト一般ニシテ此二教ハ共ニ世ノ道德  
 ノ爲メ人民ノ自由ノ爲メ世界ノ進歩ノ爲メニ  
 印度ノ古教ニ拮抗シテ獨立セシ者ナリ去レハ

佛教ト火教トヲ對較スレハゾーロストルハ恒  
 久不易ニ是非善惡ヲ剖判區分スルコトヲ基礎  
 トシテ其法ヲ建創セリ釋迦牟尼ハ自然ノ理ト  
 其結果トヲ柱石トナス者ニテ所謂因  
 縁果報法律ヲ立  
 テ是非ヲ判スルコトヲ主義トセス故ニゾーロ  
 ストルノ法ハ正理ヲ以テ主トシ釋迦ノ法ハ慈  
 悲ヲ以テ本トス甲ハ最モ善キコトハ眞實勤勉  
 正理ノ三ヨリ成立ツトシ乙ハ仁慈博愛ヲ以テ  
 成立ツトスゾーロストルハゾーロビデンス(天理)  
 即チ神ヲ説キ瞿曇悉達ハゾーロビデンス(知識)ヲ  
 慮ノ義ヲ説キ瞿曇悉達ハゾーロビデンス(知識)ヲ

説クゾーロストルハ神聖清身ヲ以テ歸旨トシ  
 佛陀ハ功德ヲ以テ目的トス火教ハ造化主宰ヲ  
 説ク佛教ハ造化ヲ語ラスシテ唯自然ノ理即チ  
 因縁合成ヲ説クニ教ノ差違如此乖反スト雖ト  
 モ其源ニ溯リテ推覈スレハ同一根抵ヨリ生シ  
 タル者ナリ何トナレハ甲乙ニ教共ニ道德世界  
 ノ改革者ニシテ近ク云ヘハ火教ハビシヨブ、ボ  
 トラルノ法ニ類セル道德ヲ敷演シ乙ハアーチ  
 ジーコン、パイレシノ法ニ似タル道德ヲ宣布ス  
 ゴーロストルハ諸ノ道德ハ恒久不易ナル理非

曲直ヲ剖判スルコトニ由テ成就シ人ノ精神中  
 ニ其道德ノ根抵ヲ保有スル者トス所謂釋迦ハ  
 善惡業種ノ因ヨリ殃福苦樂ノ果ヲ感スル者ニ  
 シテ全ク精神外ノ物ノ中ニ道德ノ根抵アリト  
 スゾーロストルノ教導ノ法ハ恒ニ惡ト抗戰マ  
 ル者ナリト云佛陀ノ法ハ自己ノ心ヲ靜定シテ  
 功德善行ヲ爲スコトヲ以テ世ヲ化益スルナリ  
 此ニ教共ニ其眼目トスル所ノ道德ハ人ノ身ヨ  
 リ生スル者ナリ尅實シテ云ヘハ人ハ主ニシテ  
 物ヲ主トスルニハ非ス全クスピリチュアル精



神譯者曰婆羅門ヲ宗トスル教ニハ概テ教祖アルヲ見ス何人ヨリ始マリシト云フコトヲ見ス而シテ道德ヲ旨トスル教ハ概テ之ニ反シテ人ノ意ヨリ生シ必ス教祖アリ道德ヲ主トシテアル教祖是レ太夕奇ト謂フヘシ去レハ印度ノスチレスム婆羅門波斯ノスヒスム埃及希臘ステリニヲプラトニスム中世耶蘇宗ノミスチスムハ正ク云ハ肇祖ト云ヘキ者ナシ其他巴比倫亞述埃及希臘羅馬宗等ノ道德ノ教無キ者ハ皆之ヲ造リタル人ナレ然レテ道德ノ宗教

ハ之ニ反シテ全ク人造ニ係ル故ニ釋迦孔仲尼ゾーロストル摩西馬哈等ノ如ク肇祖アリプロテスタントハ天主教中ノ道德ノ部分ノミヲ分取シテ獨立シタル者ナリ故ニプロテスタントニハルーザルト云フ祖アリト雖トモ中世ノ天主教ニハ一人ノ祖師アルコト無シ

アベスタノ宗教ノ全體ハゾーロストル或ハラトストラアベスタモ皆ゾーロストルヲ以テ變遷スレトクゾーロストルハ即チ訛音ヲ以テ中心トシテ其周圍ヲ回旋スル者ナリ其經書ノ最モ古キ部分ナ

大教大意 卷上 二十三 下可岸氏藏版

ル「ヤスナ」ノ「ゴサス」ニハゾーロストルハ純然タル「ガラトストラ」ニシテ言行思想共ニ善良ナル人ナリト稱歎セリ「ガラトストラ」ノミハ「オーラマスダ」ノ教旨ヲ知テ「ガラトストラ」ノミ巧辨妙舌ナリシト云ハレタリ「ゴサス」ノ首章ニ於テハ「ガラトストラ」オルマツツノカニ依テ廉潔ナル人ニ知識ヲ與フルコトヲ欲シ亦大ナル快樂ヲ與フルコトヲ望ムト記シタリ以上「スピゲル」ノ譯又「ホーグカ」同ク「ゴサス」ヲ譯セシニ曰ク我ハ偽言者ノ為ニ讎敵トナリ誠實ナル人ニハ輔

翼トナランコトヲ誓フ「ガラトストラ」ハ恒ネニ真誠ナランコトヲ祈願シ而シテ自ラ最モ眞實ナルコト世ニ比スヘキ者ナキ「オルマツツ」ノ僕ナリト云テ最モ善事ヲ行ヒ道ヲ知ルコトヲ願ヘリ以上  
猶太ノ預言者ハ己カ命セラレタル使命ヲ辟クコトダルコトヲ欲シ神ノ命令ヲ以テ重擔ト稱スルニ至リシモ止ムヲ得ス其精神ヲ焦勞シテ之ヲ行セシカ如クゾーロストルハ云フ我以爲ク神ヲ禱ルコトノ爲ニ神ハ我ニ道ヲ弘宣セヨ道ヲ弘宣スル

大友  
二四  
可岸氏或反

コトハ即チ神ヲ禱ルト命告セシトキニ神ノ道  
 ト同ナシ功德ナリ  
 ラ世ニ弘宣スルコトハ太タ困難ナリト  
 ゴーロストルハ惡事ヲ見聞スルトキハ其心ニ  
 鬱悶ヲ生セシ程ノ性質ノ人ニシテ其厭惡スル  
 所ハ外部ノ惡行ニ非スレテ精神ノ惡事ヲ忌避  
 セシナリ即チ邪念ヨリ生スル惡事ト恒ネニ善  
 良ナルコトヲ嫌忌スルノ惡心トヲ憎ミタルナ  
 リ去レバゾーロストルカ趣向スル所ニ由テ之  
 ヲ觀レハ凡ソ世界ノ苦惱ハ其本ヲ罪惡中ニ托  
 ス罪惡ノ本ハ魔界ニ於テ見出セラレハキ者ト

ナセシナリゾーロストルノ主義ハ保羅カ我輩  
 ハ血肉トハ争ハスト云シト同一轍ナリ(即チ人  
 ノ精神ト戰フヲ云フ)即チ我人ノ争ヒハ人ト争  
 フニ非スレテ唯惡行ノ本源ト争フナリ黑闇ヲ  
 管理スル者ト争フナリ此レ世界ノ惡事ノ精神  
 ト争フナリトノ意想ヲ基トシテ立教開宗シタ  
 リ此ヲ以テヤ光明ト黑闇ノ際ニ大ナル戰鬥ア  
 ルコトヲ想像シテゾーロストルハ渾テ善人ヲ  
 勧誘シテ此善惡明闇ノ戰場ニ臨マシメ善人ヲ  
 助ケテ黑闇ナル惡魔ト戰ハシメント思ヘリ然

ルニ當時地球上ニ大ナル變動ヲ生セシコトアリキ是亦ゾーロストルカ如此ノ想像ヲ助ケタリ其變動トハ恰モゾーロストルノ時代ニ於テ北亞細亞ノ氣候遽カニ變セシコトアリ蓋シ其時マテハ極熱ノ地ナリシニ頓ニ返寒ノ地トナリタルコトアリキ近代スピケルトホーグノ二人カベレリダツト書ノ第一ノ「ハルガルド」名ヲ翻譯セリ其始メニ記スル所ニ由レハ曰クアリヤナワイジョーハ「オーラマスタ」名神ノカ樂國トスルカ為ニ作りタル土地ナリシニ「アングラ

マニユスト名クル死ヲ司ル所ノ惡神アリテ大蛇ヲ造リ而シテ冬ノ氣候ヲ作りタリ故ニ忽チ十ヶ月ノ冬アリ而シテ二月ノ夏アリ以上前節已前ハ七ヶ月ノ夏ト五ヶ月ノ冬アリキ其冬ハ水モ地モ樹モミナ凍徹シテ其所ニ冬ノ心在リ深雪ハ地上ニ堆積スコレ惡ノ最モ惡ナルコトナリ以上後節スピケルモホーグモ此後節ノ文ヲ刪除シテ翻譯シタリ蓋シ附言ナリト思ヒシニ由テ之ヲ除キシカ將タ前節ト照應セストシテ脫除セシ

大及  
二十六  
可  
七  
歳  
反

カ我以為ク此前後兩節ノ文ハアリヤンノ本國ナルアリヤナワイジヨノ氣候ノ頓ニ變換シタルニ由テ溫暖ナル地ノ忽チ寒國トナリシコトヲ説明スル為ニ記セル文ト見ルトキハ重複ニモ非スマタ前後相撞着スルニモ非ス恐クハアリヤン人カアリヤナワイジヨリ波斯ニ遷居セシモ或ハマサニ此氣候ノ變換セシヲ以テ原因トシタル者ナルヘキヤモ未タ知ルヘカラス此遷移ノ事アリシハボシセンモホーダモヘンリタツド書ノバルガルド名篇中ニ其意趣ヲ

含蓄シタル者アリト考定セリ若シ此事ヲシテ事實ト符合セシメハ「ベダ」ノ最モ古キ部分ニ比スレハ更ニ古キ者ニシテ人種ノ統系ノ未タ波斯ト印度トノ二派ニ別カレサル前ニ中亞細亞ノ中真ヨリ南ニ向テ根元ノ所ヨリ流出シ來レルカ如ク見エタリ此貴重スヘキ「ヘンリダツト」ノ書ノ首メニ曰ク「我ハ新ニ家トシテ住スルニ適當ナル土地ヲ造クレリ何トナレハ若シ此地ヲ造ラスンハ人類漸クニ繁殖シテアリヤナワイジヨニ溢ルヘキカ故ナリト如此「ヘンリダ

ツトノ首メニ於テ己ニ移住セル人民カ中亞細  
 亞ナル本國ヲ思慕スルノ情ヲ見ル故ニゾーロ  
 ストリヤンカ神ノ想像カト保護カトヲ信仰ス  
 ルコトモ自ラ此中ニ含蓄セリ彼民族ハ以為ク  
 温暖和煦ノ氣候ヲ變シテ頓ニ十ヶ月間ノ冬ア  
 ルレベリヤ地方ノ氣候トナシタルモ神ノ所為  
 ノ一ナリ上古ノ以蘭ハ大ニ民ノ稱シテ樂國ト  
 スル土地ニシテ人類ハ盡ク其地ニ住スルコト  
 ヲ好ムヲ以テ遂ニ人類ノ國內ニ溢ル、コトヲ  
 懼ルレハナリ故ニ惡ノ魁首タルアーリマニ(魔)

カ物ヲ破壊スル所ノ大蛇トナリ此地ニ闖入ス  
 ルコトヲ神ヨリ許ルサレタリ茲ニ於テ七ヶ月  
 間ノ夏ト五ヶ月ノ冬アリシ氣候ハ一變シテ十  
 ケ月ノ冬ニケ月ノ夏トナリ了リシナリト去  
 ハ此アリヤナワイジヨ一ハ印度歐羅巴人種ノ  
 起リタル地ニシテホーグトボシゼンノ考フル  
 所ニ由レハ北緯三十七度ヨリ四十度ノ間ニシ  
 テ東經八十六度ト九十度ノ間ナルサマルカン  
 ドノ東北ニ當ル平野ニ在リシ地ナリトセリ此  
 地ハ恰モ冬ハ十ヶ月ニシテ夏ハ二ヶ月ノ三西

藏ノ西シベリヤノ中央亦此ニ同シモルトブラ  
ン曰クシベリヤノ國タル冬ハ概ネ十ヶ月ニシ  
テ地上雪無キハ六七兩月ノミナリ北緯六十度  
ノ地ニ至テハ六月ノ廿八日ニ於テ猶ホ地ノ凍  
ルコト三尺ノ深キニ及フト又手氣候ノ時ニ由  
テ變スルコトハ其理無キコトニ非ス地質學者  
ノ研究スル所ニ由レハ世ニ人ノ住居スル前ニ  
氣候大ニ變シタリト云然ルニ中亞細亞北亞細  
亞ノ如キハ近世ニ於テ氣候ノ變化シタル明證  
アリ一千八百〇三年ニ北緯七十度ナルデノ河

岸ノ氷塊中ヨリマンモス前世界ノ獸ニシテ象ノ如キ者ノ全  
體ノ顯レ出タルコトアリ此獸ハ數千年間氷ノ  
為ニ凝結セラレタル者ニシテ其肉聊モ腐爛セ  
スマタ乾固セサリレカ故ニ氷中ヨリ出ルニ際  
シ忽チ豺狼ノ集リ來テ之ヲ啖ヒ盡シタリ爾後  
北緯七十五度マテノ地ニ於テ同類ノ獸骸ノ氷  
中ヨリ出タルコト屢々ニシテ其肉ハ全ク新鮮  
ナルコト猶獲セシ者ニ殊ナラス今其獸ノ眼球  
ハモスコウノ博物館ニ在リ是等ノ事ハ北緯七  
十五度ノ所ニ達セル地ニ多カリシト云之ニ依

テライルハ以爲ク中亞細亞ノ大ナル部分ノシ  
ベリヤノ南半部ハ世界ノ歴史ニ於テ中古ト云  
時代ニ至ルマテハ温和ナル氣候ニシテ象或ハ  
豺等ノ獸類ノ食料ニ乏シカラサルホトニ物ヲ  
生セシ土地ナリシナラント

去レハゾーロストルハ此外面ノ氣候ノ良否ト  
地ノ轉移スル際ニ於テ渾テ世界ノ者ハ對立並  
峙スル者ナリト思考シテ希伯來ノ詩人ノ如ク  
神ハ萬物ヲ造ルニ每ニ二物互ニ相反スル物ヲ  
生セリト以謂ヘリ印度ノ如キハンセルスム<sub>宇宙</sub>

ヲ以テ神ハゾーロストルノ心ニ不滿ナリシヲ  
トスル理ハゾーロストルノ心ニ不滿ナリシヲ  
以テ即チ之ニ反シテ獨立セリ其教ノ大旨ニ曰  
ク萬般ノ事物一物善ナレハ又一ツノ惡キ者ア  
リトセリ故ニ此世界ハ爭競ノ世界ニシテ平和  
ト寧息ノ世界ニ非ス善人ノ性命ハ安眠ニ非ス  
シテ戰鬥ニ在リ若シ茲ニ善神アラハ必ス惡神  
アリ惡神ノ力強且大ナル者ナレハ人々宜ク之  
カ為ニ屈抑セラレスシテ之ト抗爭セサルヘカ  
ラス善者ノ勝利ヲ得ルヲ期スヘシ然レトモ其  
勝ヲ取ラント欲センニハ宜ク善戰健闘ヲ要ス



火教大意 卷上 于治岩齋居

ヘシ其交戦ノ機會ハ身體ヲ以テスルニ非スニ  
テ清廉ナル心ヲ以テス故ニ自己ノ心ヨリシテ  
善言善行ノ發顯スルヲ以テ好キ軍機ヲ得ル者  
トス去レハ此戦闘ヲ為スハ人タル者ノ本分ノ  
職務ナリト是即チゾトロストルカ一宗ノ精神  
ナリ

火教大意卷上終

010190528737

